



2020年7月1日

報道各位

優れたクリエイティブを表彰する
「2020 60th ACC TOKYO CREATIVITY AWARDS」開催のお知らせ
～7月13日（月）よりエントリー開始～

一般社団法人 ACC（英文名：All Japan Confederation of Creativity、東京都港区、理事長：高田 坦史）は、あらゆる領域のクリエイティブを対象としたアワード「2020 60th ACC TOKYO CREATIVITY AWARDS」（URL：<http://www.acc-awards.com/>）を開催、エントリーを2020年7月13日（月）より開始いたします。



開催 60 回目を迎える本年、コロナ禍の中でアドフェストや、カンヌライオンズといったアワードが開催中止を決める中、ACCでもアワード実施について慎重に検討を重ねて参りました。

そして、2020 60th ACC TOKYO CREATIVITY AWARDSでは、単なる審査を超えて、クリエイティビティを問い直し、提言する場にしていこうという思いのもと、今年も開催することを決定いたしました。

コロナ禍はこれまでの我々の日常を変化させ、その向こう側には「今までと違った日常」や「今までと違った常識」が芽生えて来ることは必定とされます。その after (with) コロナの世界において、クリエイティビティというものが、社会や人々にとってどんな形で役に立つものになるのかを議論し、選び出していく場にしていければと考えております。

本日7月1日（月）、各部門の審査委員および応募要項を「ACC TOKYO CREATIVITY AWARDS」特設サイトにて発表いたしました。



応募部門は、フィルム部門、ラジオ & オーディオ広告部門、マーケティング・エフェクティブネス部門、ブランデッド・コミュニケーション部門、デザイン部門（新設）、メディアクリエイティブ部門、クリエイティブイノベーション部門の全7部門。作品のエントリーは、7月13日（月）～8月14日（金）18時までです。

昨年までのブランデッド・コミュニケーション部門・D カテゴリー「デザイン」は、永井一史氏（HAKUHODO DESIGN／代表取締役社長）を新たな審査委員長に迎え、「デザイン部門」としてスタートいたします。

また、本年より賞の発表を、全7部門において2段階に分けて行います。まずは、10月上旬にファイナリスト以上に確定した作品を発表いたします。その後、最終審査を経てACCグランプリ、ゴールドをはじめとする全入賞作品を決定、発表いたします。なお、全入賞作品の発表は日程が決まり次第「ACC TOKYO CREATIVITY AWARDS」特設サイトにてお知らせいたします。

「ACC TOKYO CREATIVITY AWARDS」では、より多くの秀逸な作品を顕彰することで、さまざまな企業や団体、クリエイターの日頃の取り組みに光を当てると共に、更なる日本のクリエイティビティの発展に貢献すべく努めてまいります。

なお、各部門の応募要項および、審査委員長メッセージ、審査委員紹介等、詳細は以下の通りです。

「2020 60th ACC TOKYO CREATIVITY AWARDS」概要

【スケジュール】

■エントリー期間

- ・前期料金対象期間：7月13日（月）～7月31日（金）23：59まで
- ・後期料金対象期間：8月1日（土）～8月14日（金）18：00まで

■入賞作品発表

- ・ファイナリスト以上確定作品の発表：10月上旬

各部門でファイナリスト以上に選出された全ての作品を、特設サイトにて発表します。

※ACCグランプリをはじめとする全入賞作品の発表および贈賞式については、詳細が決まり次第アワードサイトにてお知らせいたします。

【部門構成および参加資格】

■フィルム部門

- ・A カテゴリー（テレビCM、地域テレビCM）

2019年7月1日～2020年7月31日までの間に一般社団法人日本民間放送連盟に加入している放送局において初放送されたCMが対象。

- ・B カテゴリー（Online Film）

2019年7月1日～2020年7月31日までの間に、Web上で公開されている映像広告。

初公開日は問わない。



■ラジオ & オーディオ広告部門

- ・ A カテゴリー（ラジオ CM、地域ラジオ CM）

2019年7月1日～2020年7月31日までの間に一般社団法人日本民間放送連盟に加入している放送局において初放送された CM が対象。

- ・ B カテゴリー（オーディオ広告）

2019年7月1日～2020年7月31日までの間に日本国内で放送・公開されたもの。

広告を目的に、ミニFMやインターネット、イベント・展示会等で放送・公開された音声コンテンツが対象。

■マーケティング・エフェクティブネス部門

以下のいずれか1つ以上の施策を行っていること。

- ・ 2019年7月1日～2020年7月31日の間に、一般社団法人日本民間放送連盟に加入している放送局においてテレビCMまたはラジオCMが放送されたキャンペーン施策。
- ・ 2019年7月1日～2020年7月31日の間に、ムービー、サウンドコンテンツ、新聞、雑誌、Web、イベント等で展開したキャンペーン施策。

※継続中のキャンペーンであれば、過去にエントリー歴のあるものも応募が可能です。

ただし、過去にエントリーした際と、「成果」の違いを明確に示してください。

■ブランデッド・コミュニケーション部門

2019年6月1日～2020年7月31日の間にローンチもしくは、リニューアルし展開されたブランデッド・コミュニケーション（広告/キャンペーン/ブランデッド・コンテンツ）が対象。

※2019年6月1日～6月30日の作品は、昨年応募されていないことが条件です。

※複数の部門、カテゴリーへの応募は可能です。

- ・ A カテゴリー：デジタル・エクスペリエンス

デジタルテクノロジーを活用した表現における卓越したデザインと優れたユーザーエクスペリエンス、クリエイティビティとクラフトマンシップを表彰します。

- ・ B カテゴリー：プロモーション/アクティベーション

商品やサービスの購入や利用に対して、ターゲットの積極性を促すことができた最も新しく創造的なアイデアを表彰します。

- ・ C カテゴリー：PR

社会やコミュニティにおいて新たな合意形成を図ることで、ブランドと生活者間の信頼関係を築き、生活者の意識や態度を変容させたプロジェクトを表彰します。

■デザイン部門

2019年6月1日～2020年7月31日の間にローンチもしくは、リニューアルし展開されたデザインが対象。

※2019年6月1日～6月30日の作品は、昨年ブランデッド・コミュニケーション部門 D カテゴリーに応募されていないことが条件です。



激しく変化を続ける社会、生活の中で、ますます重要度を増しているデザイン。
拡張するデザインの価値を様々な角度から見出し、未来につながる可能性を見出していきます。
社会・生活、人々の行動や感性に影響を与え、変化を生み出した、コミュニケーション、仕組み、モノやコト等、デザインのフロンティアに切り込む様々なご応募をお待ちしております。

■メディアクリエイティブ部門

2019年6月1日～2020年7月31日の期間に実施された（放送・出稿等された）メディアのアセットを活用した仕掛けや取り組み。

※2019年6月1日～6月30日に実施されたものについては、昨年応募されていないことが条件となります。

■クリエイティブイノベーション部門

未来を創り出す、世の中を動かす可能性のあるアイデアとテクノロジーとの掛け算で産み出されたプロダクト&サービスと、プロトタイプ。

※上市または社会実装、ローンチの時期は問いません。

昨年エントリーしたものでも応募が可能です。その場合は、従前のものとの違いや差分を明らかにしてください。

【審査委員長】

■フィルム部門

多田 琢（TUGBOAT／クリエイティブディレクター、CMプランナー）

■ラジオ & オーディオ広告部門 ※新任

井村 光明（博報堂／第三クリエイティブ局 クリエイティブディレクター）

■マーケティング・エフェクティブネス部門 ※新任

鈴木 あき子（サントリースピリッツ／執行役員 RTD・LS 事業部長）

■ブランデッド・コミュニケーション部門

菅野 薫（電通／エグゼクティブ・クリエーティブ・ディレクター）

■デザイン部門 ※新設

永井 一史（HAKUHODO DESIGN／代表取締役社長）

■メディアクリエイティブ部門

筋内 道彦（クリエイティブディレクター／東京藝術大学学長特命・美術学部デザイン科教授）

■クリエイティブイノベーション部門 ※新任

米澤 香子（Wieden+Kennedy Tokyo／Creative Tech Director）

<各部門の審査委員長メッセージおよび、審査委員紹介>

資料 1、資料 2 をご参照ください。



< 「ACC TOKYO CREATIVITY AWARDS」 特設サイト >

URL : <http://www.acc-awards.com/>

< 主催 : 一般社団法人 ACC >

URL : <http://www.acc-cm.or.jp/>

【ACC TOKYO CREATIVITY AWARDS とは】

「ACC TOKYO CREATIVITY AWARDS」は、テレビ、ラジオ CM の質的向上を目的に、1961 年より開催されてきた広告賞「ACC CM FESTIVAL」を前身とし、2017 年よりその枠を大きく拡げ、あらゆる領域におけるクリエイティブを対象としたアワードにリニューアルしました。

名実ともに、日本最大級のアワードとして広く認知されており、ACC グランプリはクリエイティブにたずさわる人々の大きな目標となっています。

【ACC とは】

ACC は、よい CM の制作と放送の実現に寄与することを目的として、1960 年に活動を開始。

広告主・広告会社・制作会社・メディアの 4 業種のメンバーを中心に構成され、業種の枠を超え、グローバルな視点から日本のクリエイティビティの発展に貢献すべく活動しています。

本件に関するお問い合わせ

〒105-0003 東京都港区西新橋 2-4-2 西新橋安田ユニオンビル 6F

TEL : 03-3500-3261 FAX : 03-3500-3263 URL : <http://www.acc-cm.or.jp>

一般社団法人 ACC 担当 : 平川

資料 1

「2020 60th ACC TOKYO CREATIVITY AWARDS」

各部門 審査委員長紹介およびメッセージ

■フィルム部門 多田 琢 氏



TUGBOAT

クリエイティブディレクター、CMプランナー

【プロフィール】

1963年9月20日生まれ。

87年早稲田大学第一文学部卒。同年（株）電通入社。

99年クリエイティブ・エージェンシー「TUGBOAT」を設立。

ADC 会員

【受賞歴】

クリエイター・オブ・ザ・イヤー、TCC グランプリ、ADC 賞、ADC 会員賞、ACC グランプリ、ONE SHOW Gold など

【主な仕事】

ペプシ「桃太郎」、TOYOTA「ハリアー H.H.」ダイワハウス「ここで、一緒に」、サッポロ黒ラベル「大人エレベーター」、宝くじロト「ロトもだち」シリーズなどのCM。

『新しい地図』のブランディング。

映画「SURVIVE STYLE 5」の原案・脚本、「クソ野郎と美しき世界」の原案を担当。

【メッセージ】

今、広告はどう変わっていくべきなのか・・・？

広告に一体何ができるのか・・・？

世界がどうなるかもわからないのに、

そんなことは誰にもわかりっこないし、

そもそも答えがあるとも思えない。

それでも、みんなで問い続けよう。

それが小さな一歩を踏み出すエネルギーになるかもしれない。

明日、世界が減びるとしても、

私は今日林檎の木を植える。

自分達にできることを粛々と続けていこう。

■ラジオ&オーディオ広告部門 井村 光明 氏 ※新任



博報堂

第三クリエイティブ局 クリエイティブディレクター

【プロフィール】

1968年広島県生まれ。東京大学農学部卒業後、1991年博報堂入社。

コピーライター・CMプランナーとして、永谷園「Jリーグカラー」、日本コカコーラ「ファンタ」、コンデナスト・ジャパン「GQ JAPAN」、MTI「ルナルナ」、福島県庁「ふくしまの恵み」、UHA味覚糖「さけるグミ」等の広告を制作。

ACC賞グランプリ、TCC賞グランプリ、ADC賞、カンヌライオンズフィルム部門シルバー等を受賞。

【メッセージ】

2月に審査委員長のお話をいただき、常にラジオを聞くようにしていたところ、意図せずしてコロナをラジオと暮らすことになりました。

感じたことは、過度に恐れることなく、急に自粛することもない、メディアとしての強さとしなやかさでした。

それはラジオが、今だから、ではなく、これまでも、限られた手段の中で今できることは何か、と考えてきたからだと思った。

クリエイティブで大きな課題を解決するという姿勢も大切ですが、解決に至るまでも日々の生活は続くわけです。新しい生活様式という言葉以前から、リアルタイムでリスナーと共に新しい日常を作り続けている。そこにラジオのクリエイティビティがあると思う。

ラジオCMとサウンド広告の審査が目的ですが、もう広告かどうかはあまり気にしないでいい。

ラジオというメディアに参加したくなる、そんな魅力を発信したいと考えています。

■マーケティング・エフェクティブネス部門 鈴木 あき子 氏 ※新任



サントリースピリッツ
執行役員 RTD・LS 事業部長

【プロフィール】

1992年 サントリー入社。西東京支店、ビール事業部を経て、2001年 宣伝事業部配属。2015年 サントリースピリッツ宣伝部長、2018年 サントリーコミュニケーションズ宣伝部長、2020年1月より現職。

RTD (=Ready to drink。缶入りのカクテル・チューハイなど) と瓶リキュール・スピリッツカテゴリーを担当し、商品開発・生産から営業・宣伝まで、バリューチェーン全体をマネジメントする。

【メッセージ】

マーケティングとは何か、という問いへの答えは十人十色です。審査会では毎年「マーケティングとは」「エフェクティブネスとは」という原点に立ち返り激論となります。

自社の製品・サービスを拡大するというビジネス観点の企みを前提におきつつも、お客様や社会の求めていることを徹底的に見つめることなしにそれは絶対実現できない。この「清濁あわせ飲む感じ」がマーケティングの面白さであり、当部門の独自性でもあるのではないかと思います。

冒頭の問いに対する本日現在の私の答えは、「お客様と製品・サービスをつなぐ、幸せな仕組みをつくること」です。このことは、コロナ禍の前も後も変わりがないと信じます。そして、今こそ社会に小さな幸せをもたらすため、さらには企業・事業の存続のために、マーケティングの底力が求められています。

■ブランデッド・コミュニケーション部門 菅野 薫 氏



電通

エグゼクティブ・クリエイティブ・ディレクター

【プロフィール】

2002年電通入社。データ解析技術の研究開発業務、国内外のクライアントの商品サービス開発、広告キャンペーン企画制作など、テクノロジーと表現を専門に幅広い業務に従事。

【主な作品・仕事】

本田技研工業インターナビ「Sound of Honda /Ayrton Senna1989」、Apple Appstoreの2013年ベストアプリ「RoadMovies」、東京2020招致最終プレゼン「太田雄貴 Fencing Visualized」、国立競技場56年の歴史の最後の15分間企画演出「for the future」、GINZA SIXのオープニングCM「メインストリート編」、森ビルブランドムービー「DESIGNING TOKYO」、サントリー山崎蒸溜所「YAMAZAKI MOMENTS」、NTTドコモ「FUTURE-EXPERIMENT.JP」、Björk や Brian Eno や Perfume との音楽プロジェクト等々活動は多岐に渡る。

【受賞歴】

ACC グランプリ・総務大臣賞（2014年、2015年、2017年、2018年）/ JAAA クリエイター・オブ・ザ・イヤー（2014年、2016年）/カンヌライオンズ チタニウム部門 グランプリ / D&AD Black Pencil（最高賞）/ One Show -Automobile Advertising of the Year- / London International Awards グランプリ / Spikes Asia グランプリ / ADFEST グランプリ / 東京インタラクティブ・アド・アワード グランプリ / Yahoo! internet creative award グランプリ / 文化庁メディア芸術祭 大賞 / Prix Ars Electronica 栄誉賞 / STARTS PRIZE 栄誉賞 / グッドデザイン金賞など、国内外の広告、デザイン、アート様々な領域で受賞多数。

【メッセージ】

世界の価値観が一変しました。

広告とは、何か。これからの社会の、何に役に立つのだろうか。

我々がそれぞれ持つ技術や意思を、どのように社会に機能させていくべきだろうか。

この仕事に関わる全ての人に対して、大きな課題が突きつけられています。

明快なひとつの答えがあるわけではないと思います。でも、悩み、考え、挑戦し続けなくてはならない。

いま、過去を振り返って点数を付けるだけの審査はしたくありません。このタイミングに世の中に出た仕事についてみんなで議論することで、これから先についてたくさん考えて発信する機会にしたいと思います。

今年から、デザインカテゴリーが別部門として独立しました。

BC部門では、CMとデザイン以外の全てのコミュニケーションアイデアを扱うことになります。

って、そんな細かいことを言っている場合じゃないくらい、これまでとこれからは違うものになるのかもしれない。そのことについて話したいです。

■デザイン部門 永井 一史 氏 ※新設

**HAKUHODO DESIGN****代表取締役社長****【プロフィール】**

多摩美術大学卒業後、博報堂に入社。

2003年、デザインによるブランディングの会社 HAKUHODO DESIGN を設立。
企業・行政の事業、商品・サービスのブランディングやプロジェクトデザインを手掛けている。医療・ヘルスケアや地方創生などソーシャル領域での活動も多い。
多摩美術大学統合デザイン学科教授。

【受賞歴】

クリエイター・オブ・ザ・イヤー、ADC 賞グランプリ、毎日デザイン賞など

【審査委員歴】

グッドデザイン賞審査委員長・カンヌ・アドフェスト・D&AD など

【メッセージ】

コロナによって、喪失や大きな社会不安を経験しました。
好むと好まざるにかかわらず、生活や働き方が大きく変化せざるを得ない中で、
今後デザインが担うべき役割も大きいのではないかと思います。
昨年までブランデッド・コミュニケーションの中にあつたデザインですが、
エントリーの増加に伴い、今年から独立した部門になりました。
これまでの継続的な視点は大切にしつつ、
様々な角度からデザインの価値を見つけ出していきたいと思います。
いつの時代もデザインの本質は変わりませんが、
デザイン思考、コミュニティーデザイン、ソーシャルデザイン、
体験のデザインのように、社会の要請によってその領域は常に変化しています。
新しく生まれた部門として、デザインのフロンティアや状況を見極めながら、
未来につながる可能性を探索していければと思います。

■メディアクリエイティブ部門 箭内 道彦 氏



クリエイティブディレクター
東京藝術大学学長特命・美術学部デザイン科教授

【プロフィール】

1964年福島県郡山市生まれ。東京藝術大学美術学部デザイン科卒業後、博報堂を経て、2003年独立。風とロックを設立する。

タワーレコード「NO MUSIC, NO LIFE.」、リクルート「ゼクシィ」、サントリー「ほろよい」、東京メトロなど、既存の枠に捉われない数々の話題の広告キャンペーンを長く手掛ける。

2008年から3年間MCを務めたNHK「トップランナー」を始め、NHK Eテレ「福島をずっと見ているTV」、TOKYO FM/JFN「風とロック」、ラジオ福島「風とロック CARAVAN 福島」等、各番組のレギュラーパーソナリティーとしても活動。創刊100号を数えるフリーペーパー「月刊 風とロック」の発行人・編集長でもあり、2011年の紅白歌合戦に出場したロックバンド「猪苗代湖ズ」のギタリストでもある。

2015年、福島県の情報発信を統括する「福島県クリエイティブディレクター」に着任。2016年にはコミュニティFM「渋谷のラジオ」（FM87.6MHz）を開局、理事長を務め、2020年名誉局長に就任。

【メッセージ】

広告は、先を行って時代を牽引するものではなく、
人と社会に添いながら共に前に歩むもの、なのだと思います。
9.11の後も、3.11の後も、広告は大きく変わったと感じました。

新しい日常における広告の在り方に
示唆を与えるアイデアとその実現を議論する大事な審査会になる
そんな予感がしています。

■クリエイティブイノベーション部門 米澤 香子 氏 ※新任

**Wieden+Kennedy Tokyo**
Creative Tech Director

【プロフィール】

大学で航空宇宙工学、大学院で Human Computer Interaction を専攻。
在学中未踏 IT 人材発掘・育成事業に採択され Cat@Log:Human Cat Interaction Platform を開発。

2010 年電通入社。テクノロジーの関わる領域において、研究開発業務や、企業のキャンペーンプランニングからサービス企画開発・プロダクトイノベーションまで幅広く行う。2015 年より約 2 年半ベンチャー企業に出向し、CI 策定からプロダクトデザインまで一貫してクリエイティブ・ディレクションを手掛ける。

2020 年より Wieden+Kennedy Tokyo 所属。

猫が好き。

【受賞歴】

Cannes Lions Titanium Grand Prix、D&AD Black Pencil、文化庁メディア芸術祭大賞など多数受賞。

【審査委員歴】

Cannes Lions、D&AD、One Show、など国内外のアワードの審査員を歴任。

【主な仕事】

Honda 「dots now」 「RoadMovies」 「Sound of Honda / Ayrton Senna 1989」、JAXA 「THE SPACE HANGOUT」、Olympus 「Play Air」、ispace 「HAKUTO」など。

【メッセージ】

この度は新型コロナウイルスによる被害を受けられた皆様に心よりお見舞い申し上げます。
おそらく日本中すべての方が、なにかしら生活や活動に影響を受け、苦しい思いをされたかと思えます。さまざまなものが停滞し、時代の転換期を迎える今、改めて思うのは「世の中を前にすすめる力」がいかに尊いかということです。

本クリエイティブイノベーション部門は、未来を創り出す、世の中を動かす可能性のあるアイデアとテクノロジーとの掛け算で産み出されたプロダクト&サービスと、プロトタイプを評価する部門です。

それは世紀の大発明かもしれないし、小さな工夫で大きな変化をもたらすような画期的なアイデアかもしれないし、人々の笑顔をちょっとだけ増やすステキな取り組みかもしれません。

苦境の時代だからこそ、この賞のもとに集った「世の中を前にすすめる力」を褒め、発信・定着させるお手伝いが少しでもできればと思っています。

企業、スタートアップ、研究機関に限らず、さまざまな分野からのご応募お待ちしております。



資料2

「2020 60th ACC TOKYO CREATIVITY AWARDS」

各部門 審査委員一覧

(敬称略、審査委員は五十音順)

■フィルム部門

審査委員長

多田 琢 (TUGBOAT/クリエイティブディレクター、CMプランナー)

審査委員

※後日、アワード特設サイトにて発表いたします。

<http://www.acc-awards.com/>

■ラジオ&オーディオ広告部門

審査委員長

井村 光明 (博報堂/第三クリエイティブ局 クリエイティブディレクター)

審査委員

加藤 慶 (文化放送/編成局編成部次長)

澤本 嘉光 (電通/シニア・プライム・エグゼクティブ・プロフェッショナル、
エグゼクティブ・クリエイティブ・ディレクター)

嶋 浩一郎 (博報堂 執行役員/博報堂ケトル クリエイティブディレクター、編集者)

西田 善太 (マガジンハウス/BRUTUS 編集長)

橋本 吉史 (TBS ラジオ/プロデューサー)

古川 雅之 (電通関西支社/グループ・クリエイティブ・ディレクター、CMプランナー、コピーライター)

三井 明子 (ADK クリエイティブ・ワン/コピーライター、クリエイティブディレクター)

ほかご依頼中

■マーケティング・エフェクティブネス部門

審査委員長

鈴木 あき子 (サントリースピリッツ/執行役員 RTD・LS 事業部長)

審査委員

上野 隆信 (大塚製薬/ニュートラシューティカルズ事業部 宣伝部 課長)

太田 郁子 (博報堂ケトル/代表取締役社長 共同 CEO)

PR ディレクター、ストラテジックプランニングディレクター)

大澤 あつみ (トヨタ自動車/国内販売部 主任)

奥野 圭亮 (電通/クリエイティブ・ディレクター)



佐々木 亜悠（電通／クリエイティブ・ディレクター）
白井 明子（ローソン／マーケティング戦略本部 部長）
高田 伸敏（東急エージェンシー／クリエイティブ局局长 エグゼクティブクリエイティブディレクター）
辻 毅（ADK クリエイティブ・ワン／クリエイティブ本部 本部長）
西田 裕美（カゴメ／マーケティング本部 飲料企画部長）
松井 美樹（博報堂／クリエイティブ戦略局 局長）
簗部 敏彦（花王／作成部門 広告作成部長）
宮園 香代子（ソフトバンク／東日本エリア営業本部 本部長）

■ブランデッド・コミュニケーション部門

審査委員長

菅野 薫（電通／エグゼクティブ・クリエイティブ・ディレクター）

審査委員

石下 佳奈子（博報堂／クリエイティブディレクター、コピーライター）
井上 佳那子（博報堂／プランナー）
イム ジョンホ（mount／代表取締役、Art director）
上西 祐理（電通／アートディレクター、グラフィックデザイナー）
大八木 翼（SIX／エグゼクティブクリエイティブディレクター、パートナー）
尾上 永晃（電通／プランナー）
栗林 和明（CHOCOLATE／取締役、Chief Content Officer）
小杉 幸一（onehappy／クリエイティブディレクター、アートディレクター）
小布施 典孝（電通／Future Creative Center センター長、エグゼクティブ・クリエイティブ・ディレクター）
佐々木 康晴（電通／デジタル・クリエイティブ・センター長、
エグゼクティブ・クリエイティブ・ディレクター）
嶋 浩一郎（博報堂 執行役員／博報堂ケトル クリエイティブディレクター、編集者）
嶋野 裕介（電通／CDC クリエーティブ・ディレクター、PR ディレクター）
清水 幹太（BASSDRUM／テクニカルディレクター）
東畑 幸多（電通／エグゼクティブ・クリエイティブ・ディレクター、CM プランナー）
橋田 和明（HASHI／クリエイティブディレクター）
畑中 翔太（博報堂ケトル／クリエイティブディレクター、プロデューサー）
原野 守弘（もり／クリエイティブディレクター）
細川 美和子（電通／クリエイティブディレクター、コピーライター）
三浦 崇宏（The Breakthrough Company GO／代表取締役、PR、Creative Director）
八木 義博（電通 CDC クリエーティブディレクター、アートディレクター／京都芸術大学 客員教授）
保持 壮太郎（電通／CDC Dentsu Lab Tokyo コピーライター、プランナー）
米澤 香子（Wieden+Kennedy Tokyo／Creative Tech Director）
レイ・イナモト（I & CO／Founding Partner）



■デザイン部門

審査委員長

永井 一史 (HAKUHODO DESIGN / 代表取締役社長)

審査委員

上西 祐理 (電通 / アートディレクター、グラフィックデザイナー)

川村 真司 (Whatever Chief Creative Officer、Co-Founder / WTFC Chief Creative Officer)

小杉 幸一 (onehappy / クリエイティブディレクター、アートディレクター)

齋藤 精一 (ライゾマティクス / アーキテクチャー 主宰)

諏訪 綾子 (food creation / アーティスト)

太刀川 英輔 (NOSIGNER / 主宰、ディレクター)

中村 勇吾 (tha / ウェブデザイナー、インターフェースデザイナー、映像ディレクター)

野崎 互 (スマイルズ / クリエイティブ本部 CCO、取締役)

ムラカミ カイエ (SIMONE / CREATIVE DIRECTOR)

八木 義博 (電通 CDC クリエイティブディレクター、アートディレクター / 京都芸術大学 客員教授)

ほかご依頼中

■メディアクリエイティブ部門

審査委員長

箭内 道彦 (クリエイティブディレクター / 東京藝術大学学長特命・美術学部デザイン科教授)

審査委員

有元 沙矢香 (電通 / コピーライター、プランナー)

内田 佳奈 (ライオン / ビジネス開発センター エクスペリエンスデザイン マネージャー)

岡 慎太郎 (NTT ドコモ / 広報部 広報担当部長)

鯉淵 友康 (日本テレビ放送網 / 人事局 人事部長 兼 キャリアサポート部長)

坂井 佳奈子 (ハースト婦人画報社 / インターナショナル メディア グループ エル コンテンツ部 総編集長、
エル・ジャポン 編集長)

佐久間 宣行 (テレビ東京 / プロデューサー)

田中 美奈子 (博報堂 DY メディアパートナーズ /
クリエイティブディレクター、メディア・コミュニケーションプロデューサー)

中谷 弥生 (TBS テレビ / メディアビジネス局長)

秀島 史香 (FM BIRD / ラジオ DJ、ナレーター)

平池 綾子 (資生堂ジャパン / メディア統括部 メディアバイインググループ グループマネージャー)

横山 祐果 (AbemaTV / プロデューサー)

ほかご依頼中



■クリエイティブイノベーション部門

審査委員長

米澤 香子 (Wieden+Kennedy Tokyo / Creative Tech Director)

審査委員

岩下 恵 (IDEO Tokyo / Design Director)

小野 直紀 (博報堂 / 『広告』編集長、monom 代表)

木下 真吾 (NTT 研究所 主席研究員・研究部長 / 大阪芸術大学 アートサイエンス学科 客員教授 /
電通 Dentsu Lab Tokyo 客員主席研究員)

キリーロバ ナージャ (電通 / クリエーティブ・ディレクター)

徳井 直生 (慶應義塾大学 准教授 / Qosmo 代表取締役 / Dentsu Craft Tokyo Head of Technology)

中西 裕子 (資生堂 R&I 戦略部 / 資生堂オープンイノベーションプログラム fibona プロジェクトリーダー)

中村 洋基 (PARTY Creative Director、Founder / ヤフー MS 統括本部 ECD)

福原 志保 (グーグル テクノロジーインテグレーションリード / bcl / HUMAN AWESOME ERROR)

松島 倫明 (『WIRED』日本版 編集長)

盛島 真由 (Beyond Next Ventures / 執行役員)

暦本 純一 (東京大学 教授 / ソニーコンピュータサイエンス研究所 副所長)

ほかご依頼中

以上